兒雷也豪傑譚（じらいやごうけつものがたり）

上の巻

三十九編

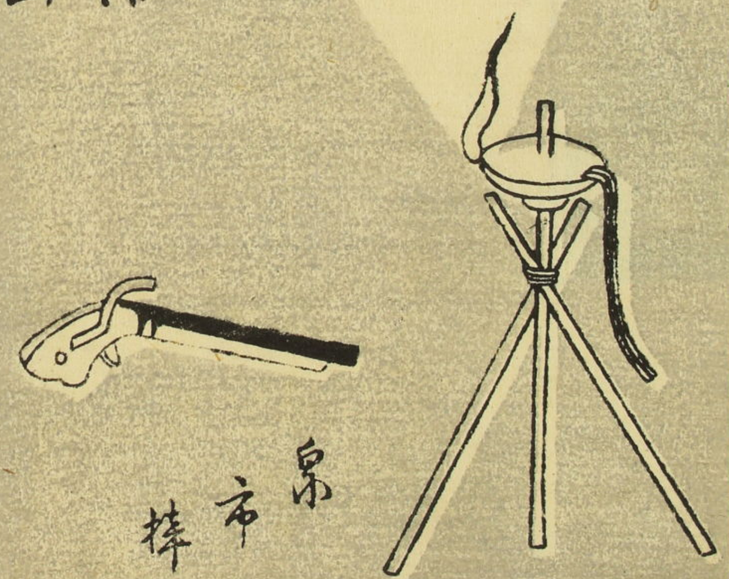
へ13
3878
77

門へ13
號3878
冊

兒雷也豪傑譚

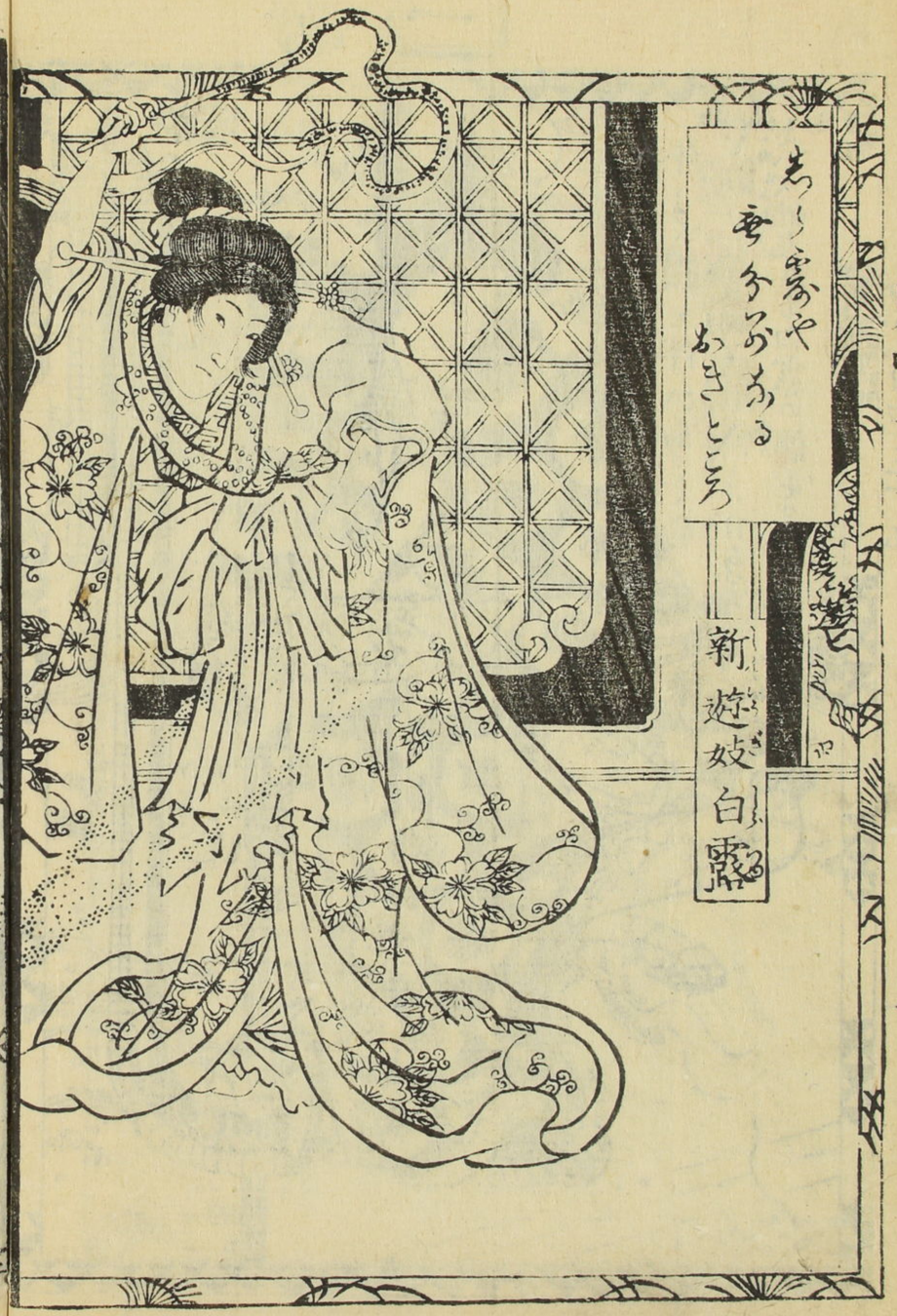
上卷

柳亭作
一壽斎画



泉市梓

牛蒡積を伴ひ馬蒡野を訪ふ同気同病相求めと云日本武大蛇丸なる白露の偶まるとと



まつ雪や
雪ふるあるあきとところ

新遊妓白露

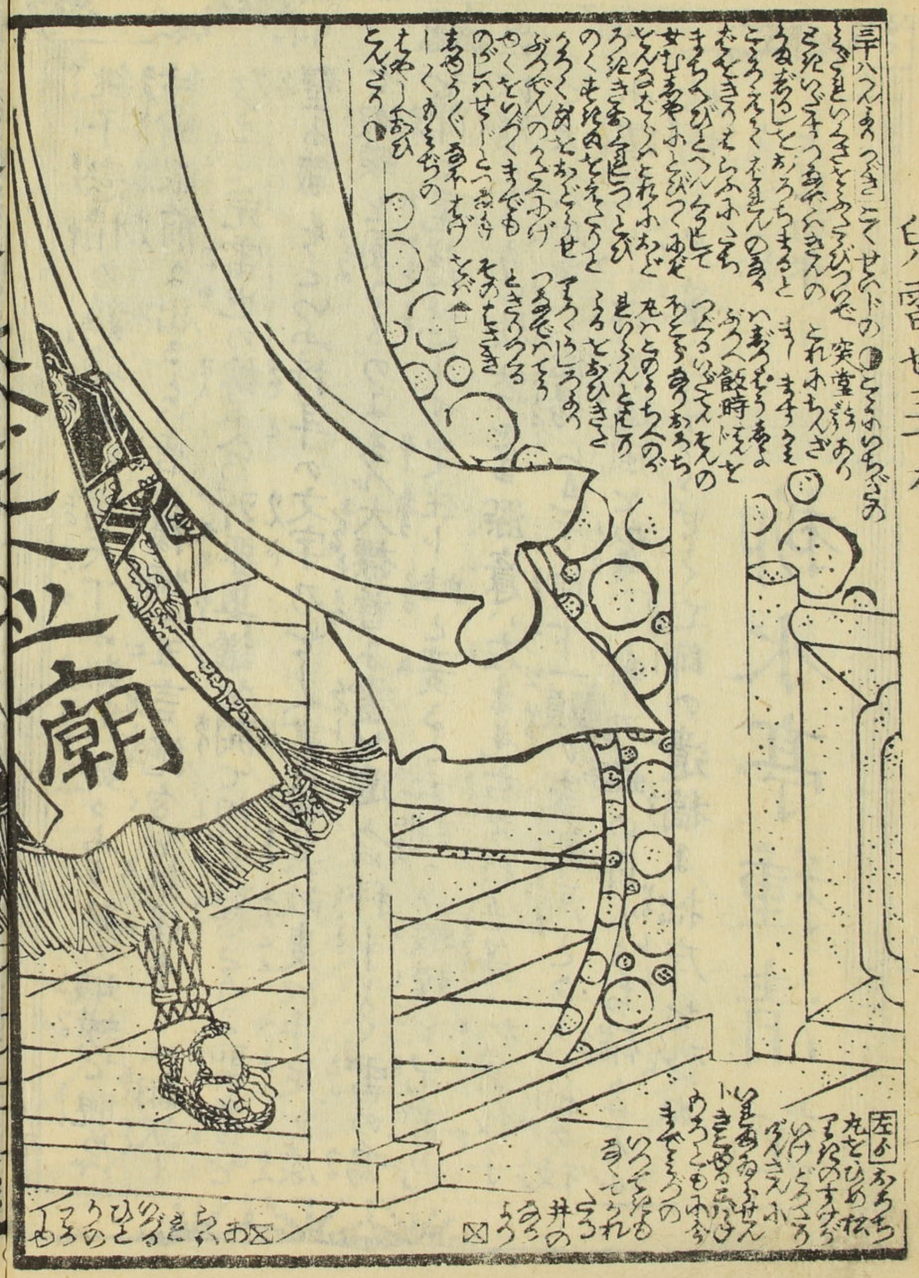
占遊君岸河太夫

白露が本身は遠州桜が池の大蛇にて周馬と墓をこ一駿府弥勒街の色男よりその身を沈るこ是や因地の高聖が弥勒の出世をまつふ符合也然ハ一の巳ざる遂り大蛇丸こが妻とまりて毒を醞せこと大火坑乃天を焼んとする性のり

銚子戀情の鶏卵酒兒雷天下ゑ鞦韆蛇がふろゆの蝦蟆を睨めば蛙蝓眼前ゑ出るとゑ唐の揚烟が五言絶句と越後ぎんくれ翻訳ーたる這兒雷也の稗史ゑ所要奥議を開て視せ禀さんゑ聖書と壁ゑ藏もとゑ科斗の文字ゑもとゑ書籍其故吏に手足を添て蝦蟆を刎るゑのゑ大標首ゑ雷を遣ゑ科斗ゑく雷の鳴を聞て尾落然ーて足生ド蛙と変ると云詞ゑ蝦蟆を兒雷也に帰もるゑの欣然をる深意ハ左まゑ右まれ吾等が於玉ヶ池子を使ゑ此身を拯揚らゑて柳下一頭の家部流とゑ柳の枝ゑ躍騰りゑ野の道風を驚ーー傘ゑ蛇の目ゑ打ち確ゑ せんと蛙蝓半尺筆のゑ ゑ せゑく亡師の遺稿ゑ拙序を加へぬ

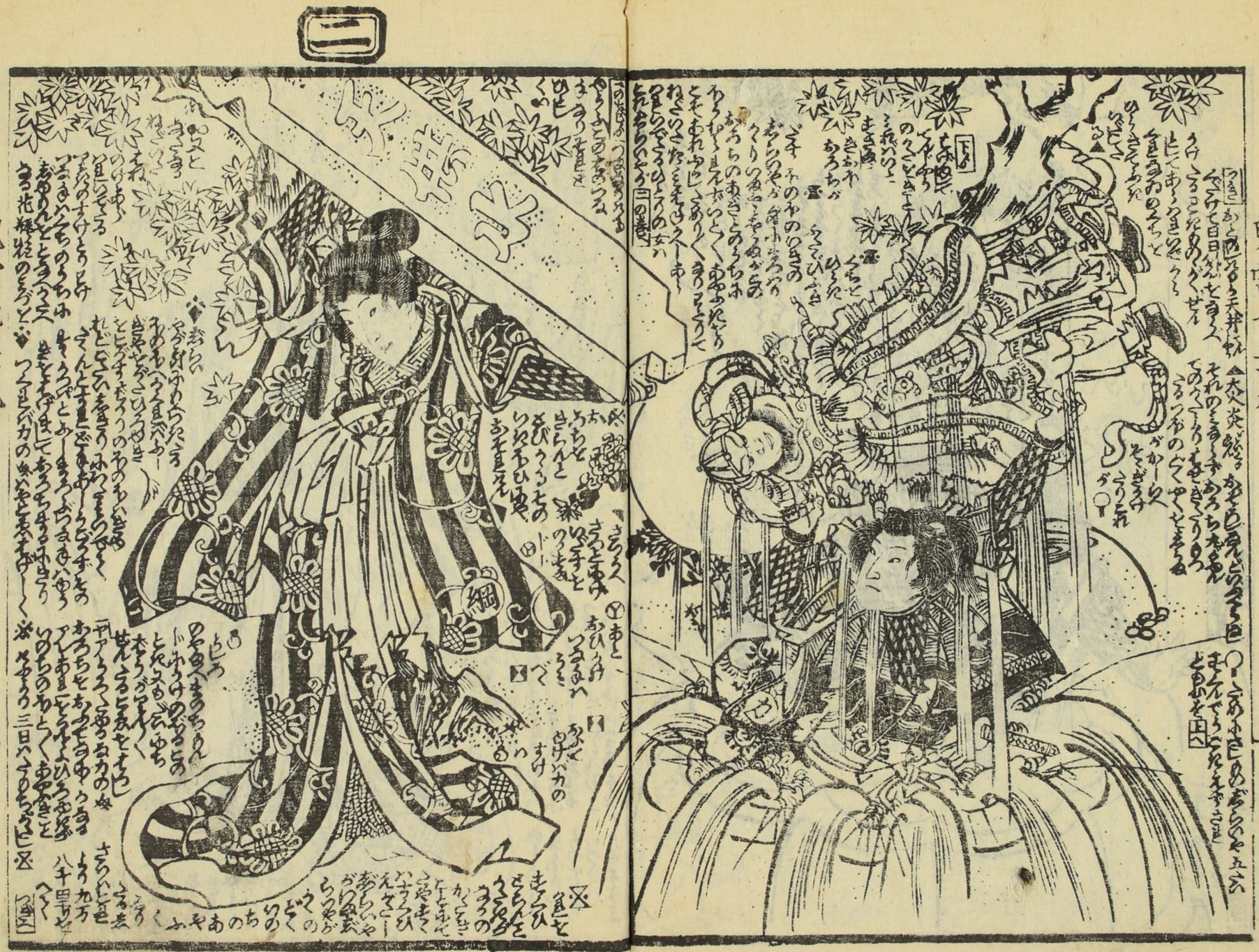
文久二稔
壬戌初春

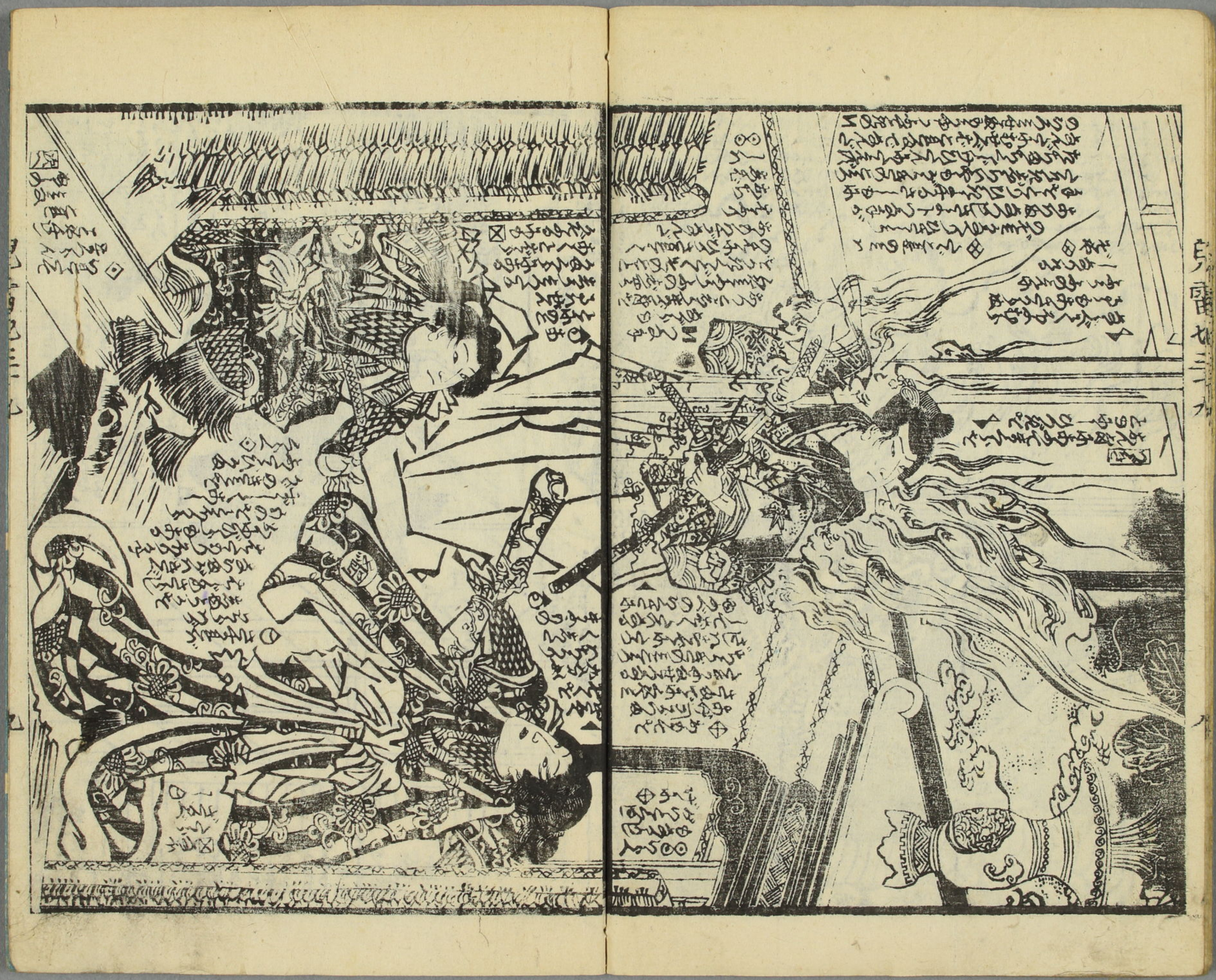
柳水亭種清記

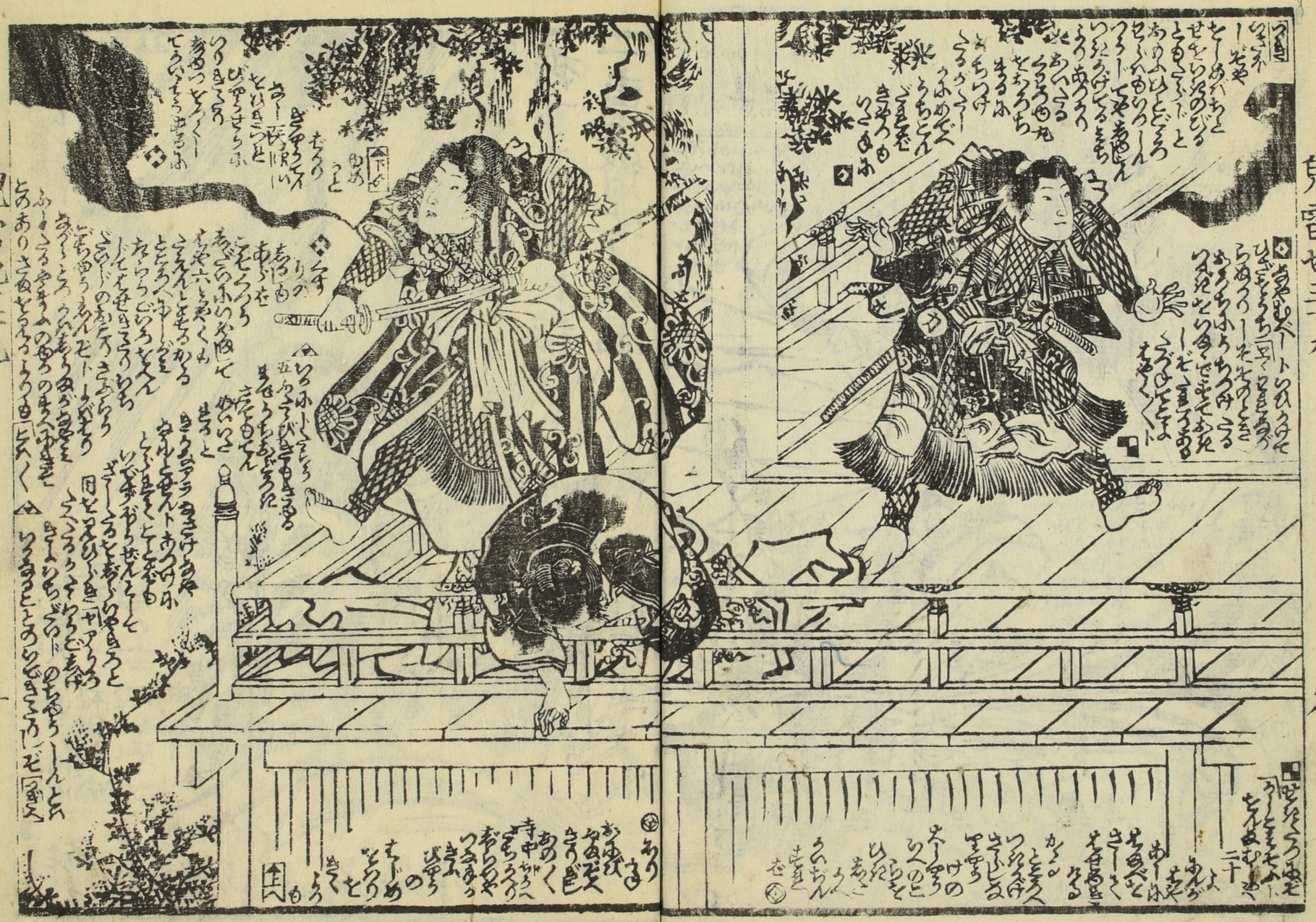


章駄天出朝

天照大神







柳下亭種員稿

一恵齋芳幾画

一兒雷也豪傑譚　四拾弐篇

一一休草紙　拾五篇

一風俗淺間嶽　拾四篇

一黄金水大盡盃　拾七篇

書肆
地本問屋

芝神明前
和泉屋
市兵衛

銀座四丁目
同　支店